



講演資料

音楽フェスを活かした 地域振興の取組

～滋賀県・草津市によるFEST. INAZUMAとの連携～

滋賀県 / 草津市

令和8年10月8日



FEST. INAZUMA

We cherish the waters of Lake Biwa.
We keep clear skies, and wrap the land in green.
We preserve our heritage—
creating a sanctuary of water and forest.



本日の内容

滋賀県・草津市

01 プロフィール

02 FEST. INAZUMAの基本情報

03 開催までの経緯・毎年の変化

04 スケジュール（年間・直前・当日）

05 役割分担

滋賀県・草津市

06 寄附金・ふるさと納税

滋賀県・草津市

滋賀県・草津市

07 行政の取組・おいで～な滋賀体感フェア

滋賀県・草津市

滋賀県・草津市

08 草津市の取組・イナズマフードGPXL

草津市

滋賀県・草津市

09 開催の効果

滋賀県・草津市

滋賀県・草津市

10 フェス成長の秘訣

滋賀県・草津市



滋賀県

滋賀県 観光政策局

長井 啓輔

主査

平成29年 民間企業勤務を経て入庁（現DX推進課に配属）

令和2年 現観光政策局に配属（現在7年目）

令和5年 観光PR担当（イナズマの「おいで～な滋賀」体感フェア）

令和6年～ 観光PR担当＋観光大使担当（イナズマ担当）

現在、大河ドラマ「豊臣兄弟！」を活かした観光PR業務のほか、観光大使担当として西川さんまわりの調整を、イナズマ担当として運営に必要なさまざまな調整等を行っている。



草津市

草津市 環境経済部 商工観光労政課

堤 伸仁

主任

令和元年 民間企業勤務を経て入庁（総務課〈選挙管理委員会〉に配属）

令和6年～ 商工観光労政課に配属（現在3年目）。同年より観光PR担当（イナズマなどの観光イベントや観光施策の企画等）

現在、観光誘客のための観光施策の企画や、観光イベントの開催・民間イベントの誘致を行いながら、イナズマ担当として運営に必要なさまざまな調整等を行っている。



FEST. INAZUMAの基本情報

滋賀県・草津市

名称	FEST. INAZUMA（2025年までは「イナズマロック フェス」）
発起人	西川貴教氏（ミュージシャン、滋賀ふるさと観光大使）
会場	滋賀県 草津市 烏丸半島芝生広場 （滋賀県立琵琶湖博物館 西隣 多目的広場）
初開催	2009年（平成21年）
2026年	9月19日（土）・20日（日）・21日（月・祝）の3日間
特徴	琵琶湖畔の野外フェス／無料で入れるフリーエリアが充実／関連イベントも充実

開催回数

18 回目（2026年）

来場者数（2026年）

12.9万 人

累計来場者数

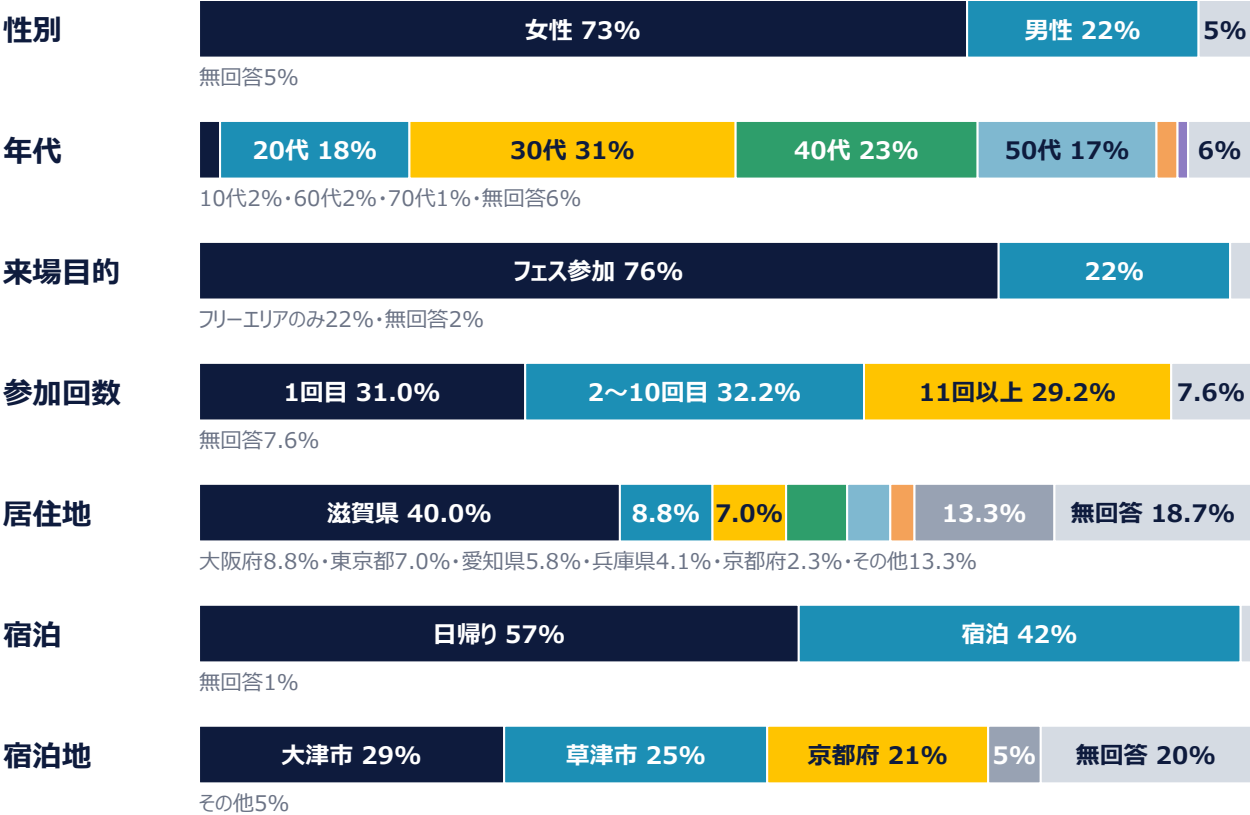
約130万 人



来場者の属性と関連イベント

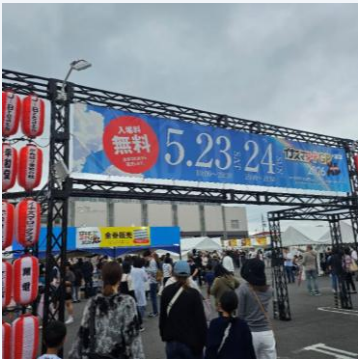
滋賀県・草津市

来場者属性



出典：「おいで～な滋賀」体感フェア（フリーエリア内の観光PRブース）アンケート（n=171）
※宿泊地は宿泊者の回答

関連イベント



開催地：草津市

イナズマフードGPXL

来場者の投票で上位の店舗がイナズマへの出展権を獲得するフードバトル（5月開催）



開催地：草津市・守山市

FEST. INAZUMA 2026直前！ タボくんバンド強化合宿！

FEST. INAZUMA公式キャラクター「タボくん」の関連イベント



開催までの経緯 ① きっかけと会場探し

滋賀県・草津市

きっかけ（2008年）

1 新春対談 — すべての始まり

- ・県広報誌「滋賀プラスワン」新年号は、知事と滋賀ゆかりの著名人との対談が恒例
- ・**滋賀の魅力や可能性について意気投合**
- ・西川さん「**ロックフェスのようなイベントを滋賀県内でできればいいなと思っている**」に、知事が琵琶湖博物館近くの芝生広場（現在の会場）を提案し、「琵琶湖の夏の夕焼けをバックにコンサートなんて素敵」と発言
- ・イベントを「受け皿」に一緒に盛り上げ、誇りを持てる人・滋賀に来る人を増やしたい
- ・「行政側でポジションを作ったら、引き受けていただけないか」との打診に西川さんが快諾

参考：県広報誌「滋賀プラスワン」2008年 新春対談「滋賀に元気な風を吹かせよう」

2 観光大使制度を創設

- ・当時の担当者が「初代西川担当」として、制度づくりからスタート
- ・議会に説明して形をつくり、滋賀ふるさと観光大使として西川さんに委嘱

3 フェス開催へ

- ・西川さんから音楽イベントの話もあり、開催に向けて始動
- ・**役割分担**：騒音・交通渋滞・ごみは行政が引き受け、フェスの中身は西川さんに

会場探し



希望が丘文化公園

アーティストの開催実績はあるが、アクセスと駐車場に課題



皇子山陸上競技場・野球場

スポーツの大会や地元との調整が困難



烏丸半島

琵琶湖を一望できるロケーション。当時の知事は琵琶湖博物館の設立に深く関わり、このエリアに特別な想いを持っていた

許可と体制づくり

土地の使用許可

国の外郭団体（独立行政法人水資源機構）が所管し、民間イベントには原則貸し出せない土地。県が全責任を負う形で使用許可を取り付けた

草津市のコミット

草津市長にも話をつけ、最初から市が関わる体制に。身近な苦情が一番寄せられる草津市の協力が不可欠だった



開催までの経緯 ② 地元の理解と第1回開催

滋賀県・草津市

最初の壁

- ・「フェス」そのものを説明しても伝わらない
- ・当初は市役所も乗り気ではなかった
- ・「不良グループが大勢来るのでは」「入れ墨やたばこのポイ捨て」といったイメージ
- ・自治会長から難色 → 自治会の総会でも説明



突破口

- ・草津市が理解し動いてくれたことで、地元自治会や警察への説明が格段に進んだ
- ・琵琶湖の水質保全をテーマにした地域振興として、地元の人も楽しめるフリーエリアを創出
- ・行政の補助金に頼らず、民間のフェスが県に寄附する形 → 行政も動きやすい

2009年 第1回開催

2日間で **約3万人** が来場



懸念されていたごみの問題は起きず、むしろ西川さんのファンが自発的にごみ拾い。翌年から徐々に雰囲気が変わっていった

県や市が動けた理由

西川さんが観光大使に就任

琵琶湖の環境保全

地域振興

地域の誇りとなる文化の創造



03 HISTORY

毎年何かが変わるフェス

滋賀県・草津市

毎年の振り返りや状況の変化を踏まえて、開催の形や運営の方法が変わり続けています。

2020	オンライン開催	
2021	新型コロナの影響で中止	
2022	3日目が台風の影響で中止	
2023	初の10月開催	シャトルバスの発着を草津市から守山市に変更
2024	従来 of 9月開催に	「イナズマ公式タクシー」を導入（草津駅→会場、会場→各地）。タクシー協会と調整
2025	ふるさと納税の返礼品化・湖上交通の導入	チケットを滋賀県・草津市の返礼品として提供。湖上交通（船）を使った会場輸送を実施
2026	名称を「FEST. INAZUMA」に変更	守山市長が初めて開会宣言



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
滋賀県	挨拶回り	各種手続き				開催	反省会				寄附	
				各所協議 地元説明								
				体感フェア 出展募集								
草津市	挨拶回り	各種手続き				開催					寄附	
		イナズマ フードGP		各所協議 地元説明	イナズマ限定 フオトスポット 設置事業							
						地元小学校 会場見学						

※「体感フェア出展募集」は「おいで〜な滋賀」体感フェアの出展者募集。



開催前後のスケジュール（9月）

滋賀県・草津市

9/14
(月)

9/16
(水)

9/18
(金)

9/19～21
(土～月・祝)

9/23
(水・祝)

9/24
(木)



イナズマ会場の
事前立ち会い

PRブースの
パンフレット袋詰め

草津市の地元小学校
の会場見学の立ち会い

PRブースの
前日準備

開催

終日
会場清掃

イナズマ会場の
返還立ち会い

開催の1週間前から会場返還まで、準備・当日対応・後片付けに一貫して関わっています。



当日のスケジュール（2026年・3日目）

滋賀県・草津市

時間	滋賀県・草津市の動き	フェスの進行
6:00	会場入り・駐車場警備	
6:00～8:00	会場待機（準備）	
8:00～9:00	「おいで～な滋賀」体感フェアの準備	
9:00		フリーエリア開場
10:30～12:00	市長の開会宣言の対応	
11:30		開演
12:30～16:00	琵琶湖博物館の駐車場誘導（総動員）	
16:00～16:30	翌日以降の駐車場運用の調整	
16:30～17:00	「おいで～な滋賀」体感フェアの状況確認	
18:00～22:00	会場前の交通規制エリアの警備・調整、イナズマ公式タクシーとの運用調整	
19:00		終演



役割分担

滋賀県・草津市

滋賀県・草津市（行政）

地元・関係機関との調整、観光PRなど

実行委員会

全体運営
フェスの制作
協賛依頼

FEST. INAZUMA

発起人
西川貴教氏

びわこビジターズビューロー

体感フェアの運営 など

事業者

主に出展
（飲食・物販・体験 など）



寄附金とその活用

寄附



寄附目録の贈呈



ニゴロブナの稚魚の寄附（木浜漁港）



活用



外来魚回収用の軽トラック「イナズマ号」



烏丸半島西トイレの改修（令和2年度）

第1回から寄附をいただいている

滋賀県 累計 **4,500万円超**

草津市 累計 **750万円**

・びわ湖の日（7月1日）に、琵琶湖固有種「ニゴロブナ」の稚魚約40万匹を県漁業協同組合連合会に寄附

・守山市木浜町の木浜漁港周辺の清掃活動にも参加

・琵琶湖の保全に関する事業（水質保全、水草対策、外来魚駆除など）の一部に充てている

・過去には、外来魚を回収する軽トラック（通称「イナズマ号」）を寄贈いただいた

・令和2年2月、イナズマロックフェスのオークション収益金1,703,451円を、施設を管理する水資源機構へ寄附

・和式便器の洋式化、扉・照明器具の取替を実施

・北側入口に記念プレートを設置

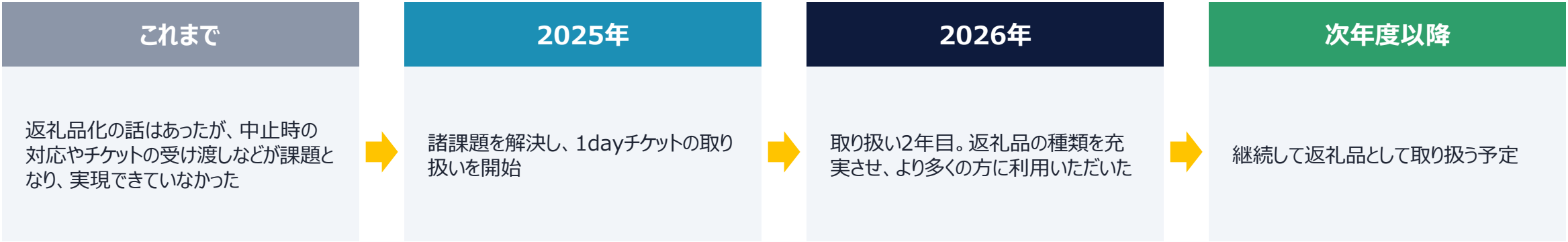
出典：独立行政法人水資源機構「令和2年度の『使途特定寄附金』の実績報告」



チケットのふるさと納税返礼品化

滋賀県・草津市

地元への恩返しの一つとして、西川さんの発案で2025年からイナズマのチケットをふるさと納税の返礼品に





行政の取組 ～「調整役」として～

金銭的支援ではなく、地元の理解が必要な細かな調整に関与することで、フェスの開催を支えています。



地元への説明・合意形成

実行委員会・県・市と一緒に、毎年説明に回る



交通・駐車場対策

地元警察・駅をはじめ関係各所と協議し、会場付近の交通規制を実施。路上駐車が多い場所には市がコーンを立てて対策



安全・安心の確保

警察との協議・情報提供、救護所に派遣する医師・看護師の調整



会場・施設の利用調整

観光部署が所管する施設はないため、所有者（国・県・市・民間）と協議・申請を行い、運用を調整



環境への配慮

駅などへのごみ箱の設置依頼、実行委員会からの寄附金の活用、終了後の清掃活動を徹底



観光PR・情報発信

滋賀県観光PRコーナー（「おいで～な滋賀」体感フェア）を設置し、滋賀県の体験型観光をPR



行政との連携事例

滋賀県・草津市



知事・市長による 開会宣言

第1回から続く恒例行事



知事



草津市長



県民枠・市民枠 チケット

滋賀県民限定・草津市民限
定のチケットを用意

**FEST.INAZUMA(フェスティナズマ)2026
先行予約チケット**

今年からイナズマロック フェスはFEST.INAZUMA(フェスティナズマ)に名称が変わりました。

滋賀ふるさと観光大使の西川真教さんから、県民の皆さんのために
先行予約チケットが用意されています。ぜひご利用ください。

◆開催日…9月19日(土)、20日(日)、21日(月・祝)
11時30分～19時(予定)

◆会場…草津市鳥丸半島芝生広場(草津市下物町)
https://fest-inazuma.com/

◆先行予約チケットの発売◆
◆受付期間…7月1日(水)10時～8月16日(日)23時59分
◆受付URL…https://eplus.jp/fi-sp-s/
◆販売枚数…各日1,000枚(1人4枚まで・先着順)
◆料金(手数料)…GA19日券、GA20日券、GA21日券 各日15,000円
(手数料は、ご利用枚数によって異なります。詳しくは申込サイトでご確認ください。)

キヨードーインフォメーション 0570-200-888(土日祝除く12時～17時)



ふるさと納税 (R7～)

初年度は一般チケットのみ。今年度から特典付きチケットやVIPチケットなど種類が増え、草津市内の宿泊施設も対象に



県内企業向けの団体チ ケット

福利厚生用として、県内企業に団体
チケットを案内



地元小学校の見学

草津市内の地元小学校の現場見学
会を実施



水素発電の実証実験

県CO₂ネットゼロ課による、水素発電
を活用した電気供給の実証実験を実施



今年やったこと（2026年）

開催を支えるため、行政として多くの申請・調整・対応を行いました。

申請 8件

- ・**会場**（独立行政法人水資源機構、草津市、県〈河川法〉）
- ・**琵琶湖沿いの公園駐車場**（県）
- ・**琵琶湖博物館臨時駐車場**（株式会社JPF）
- ・**守山駅バス関係**（守山市）
- ・**県関係者駐車場**（公益財団法人国際湖沼環境委員会）
- ・**電話回線・光回線**（草津市）
- ・**救護所**（医師・看護師）
- ・**交通規制**（草津警察署・県・市）

調整 14件

- ・琵琶湖博物館の駐車場運用の変更
- ・草津市の地元説明
- ・会場前の道の駅との調整（有料駐車場、交通規制）
- ・守山駅周辺の地元説明（地元自治会、地元企業の会議）
- ・トイレカーの派遣調整（県・市）※熊本地震のため見送り
- ・イナズマ公式タクシー（タクシー協会）
- ・水生植物公園みずの森との調整
- ・烏丸半島協議会との調整（水道メーター、電気）
- ・路線バス会社との調整（駅運用）
- ・草津駅・守山駅との調整
- ・イナズマフオスポットの準備
- ・イナズマフードGPXLの調整
- ・地元小学生の会場見学ツアーの調整
- ・会場一般利用者との諸調整

その他の対応 13件

- ・緊急連絡先の整備
- ・知事・市長の開会宣言の対応
- ・会場清掃計画の策定
- ・イナズマのリリースへの協力
- ・後援申請
- ・県民枠・市民枠チケットの広報誌掲載の調整
- ・地元企業、県・市職員向け団体チケットの販売調整
- ・チラシ・ポスターの配架（県内各所）
- ・ふるさと納税の調整
- ・副知事の視察対応
- ・関係者の招待調整
- ・メディアの取材対応
- ・新潟県での講演



「おいで～な滋賀」体感フェア

滋賀県

FEST. INAZUMAの関連イベントとして、県内外から訪れる来場者に滋賀の体験型観光をPRし、滋賀の魅力を発信

日時	令和8年9月19日（土）～21日（月・祝） 9:00～18:00
場所	FEST. INAZUMA 2026 会場フリーエリア （草津市 烏丸半島）
運営	公益社団法人びわこビジターズビューロー／滋賀県
内容	体験型観光のPRに取り組む団体・事業者の出展 （出展料無料）／県内ご当地キャラの出演
目的	体験型観光のPR等を通じた滋賀の魅力発信・観光振興



■ 赤枠：「おいで～な滋賀」体感フェアの会場（フリーエリア内）





「おいで～な滋賀」体感フェアの実施状況

滋賀県

出展団体数（2026年）

27

 団体

ブース来場者数（2025年実績）

約1万

 人／日

出演ご当地キャラ（2026年）

15

 体


- ・ブースを周遊するスタンプラリーを実施し、出展者から提供いただいた景品をプレゼント。参加者が非常に多く、好評をいただいている。
- ・出展の相談をいただく団体が年々増えており、お断りする場合もある。
- ・ブースは出展せず、キャラクターのみ出演する団体もある。
- ・有料の体験もいくつかあるが、多くの方が参加され、1日分の枠が早々に売り切れる状況。
- ・県と出展団体との新たな交流の場にもなっている。



08 KUSATSU CITY

イナズマロックマンホール

草津市

開催地「烏丸半島」に平常時も活力をもたらすため、周遊促進を目指したデザインマンホール事業

2023

事業開始。第1回（2009年）～第4回（2012年）のデザインを設置

2024

第5回（2013年）～第8回（2016年）を設置。マンホールカードの配布開始

2025

第9回（2017年）～第12回（2020年）を設置

2026

第13回（2021年）～第17回（2025年）を設置し、全デザインの設置完了



西川さんのXより



草津市長と（当時）



道の駅草津で配布の
マンホールカード



- ・健康推進アプリ「BIWA-TEKU」のウォーキングコースに活用
- ・西川さんの発信により、平常時も烏丸半島を周遊する「聖地巡礼」の観光客が多い（毎年マンホールを回って撮影）
- ・マンホールカードは配布日になくなるほどの人気



地元小学生の会場見学ツアー

地元の子どもたちにイナズマの良さをより知ってもらうため、舞台裏などを見学
～西川さんとの集合写真は、毎年の卒業アルバムのメインに～

日時	令和8年9月18日（金） 10:00～11:40
場所	FEST. INAZUMA会場（草津市 烏丸半島）
運営	FEST. INAZUMA 2026実行委員会／草津市／草津市立常盤小学校
内容	イナズマ前日の金曜日に毎年、常盤小学校の6年生を会場見学ツアーに招待。設営中のメインステージやフリーエリアを見学し、カメラや音響機材などを体験。西川さんとの面談では応援メッセージや質問、記念品の贈呈を行い、最後に記念撮影
目的	FEST. INAZUMAへの関心を高めるとともに、地元で開かれる素晴らしいイベントと、そこで様々な仕事に携わる方々を見て感じ、「仕事」への理解を深める





イナズマ限定フォトスポット事業

草津市

【草津市独自施策】イナズマの来場者に市街地へ足を運んでもらい、地域経済への波及効果を高める
～イナズマ会場のフォトスポットを担当する成安造形大学と連携～

日時	令和8年8月28日（金）～9月24日（木）※イナズマ期間
場所	① JR草津駅西口 ② フェリエ南草津（JR南草津駅直結）
運営	草津市（協力：成安造形大学）
内容	成安造形大学の学生が制作した、毎年のイナズマ限定デザインのフォトスポットを設置。イナズマ期間はホテルの稼働が高く前泊・後泊が多いため、すき間時間に記念撮影をする方が多い
目的	観光客に市街地へ足を運んでもらい、地元の飲食店やお土産店での消費を喚起するきっかけづくり





イナズマフードGPXL in 草津

草津市

FEST. INAZUMAの前哨イベントとして、県内外からの来場者に「食」の視点からイナズマを知ってもらう
～来場者の投票で上位となった店舗が、FEST. INAZUMAへの出展権を獲得できるフードバトルイベント～

日時	令和8年5月23日（土）10:00～20:30 5月24日（日）10:00～19:30
場所	滋賀トヨタアリーナ（草津市） JR草津駅から徒歩10分
運営	イナズマフードGPXL2026実行委員会
内容	単なるフードイベントではなく、幅広い世代が興味を持つ「食」をきっかけに、これまで音楽への関心が薄かった方々にも音楽の魅力を伝える機会とし、音楽ライブやキッズダンスショー、ゆるキャラショーなどを実施
目的	FEST. INAZUMAへの関心を高めるとともに、音楽を中心とした文化芸術の普及・啓発、環境学習、郷土愛の醸成、地域観光の振興





08 KUSATSU CITY

イナズマフードGPXL in 草津の実施状況

草津市

出展店舗数（2026年）

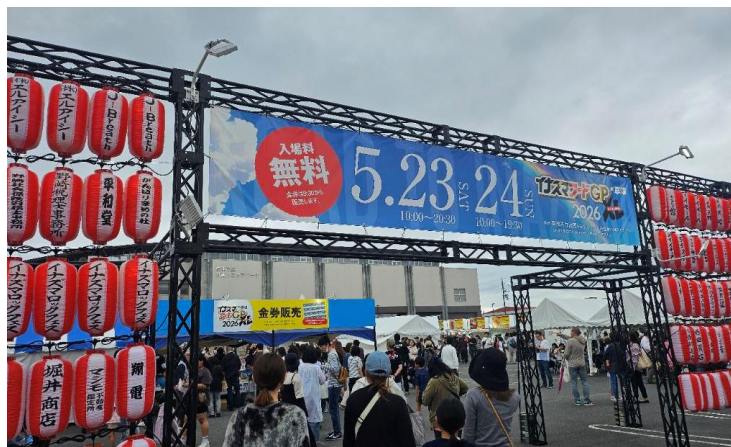
64 店舗

来場者数（2026年）

約4万 人／2日

出演キャラ数（2026年）

16 体



- ・国内の全国グルメだけでなく、海外グルメや近年はスイーツなども増え、より幅広い方々に全国から集まるグルメを楽しんでもらっている
- ・金券に投票券が付いており、来場者が一番良かった店舗に実際に投票する体験型イベントとなっている
- ・ステージでは多くのダンスチームによるダンスショーを開催し、地元の子どもの発表の場にもなっている
- ・琵琶湖のヨシを使ったワークショップなど体験も充実。FEST. INAZUMAの開催目的の一つである琵琶湖の環境学習の普及にもつながっている
- ・全国からゆるキャラが集まり、多くのゆるキャラファンの交流の機会を創出している



イナズマフードGPXLが定着するまで

草津市

来場者がより便利に楽しめるよう、また効率的に運営できるよう、地域と一緒に変わってきた

年	回	会場	出展数	イナズマへの出展数	ポイント
2015	第1回	野村運動公園	58店舗	20店舗	
2016	第2回	矢橋帰帆島公園	46店舗	20店舗	
2017	第3回	西友跡地	43店舗	20店舗	
2018	第4回	de愛ひろば跡地	40店舗	20店舗	
2019	第5回	YMITアリーナ	40店舗	20店舗	現在の会場で初開催
2020～22	コロナ禍により中止				
2023	第6回	YMITアリーナ	42店舗	20店舗	会場が定着 → 地元の方にもイベントが定着
2024	第7回	YMITアリーナ	60店舗	28店舗	名称が「XL」に。イナズマへの出展数が増加
2025	第8回	YMITアリーナ	64店舗	28店舗	
2026	第9回	滋賀トヨタアリーナ（旧称：YMITアリーナ）	64店舗	28店舗	



開催の効果

経済波及効果（累計）

100億円以上

日本経済新聞（2025年9月）の知事インタビューより

県内の宿泊

週末はほぼ満室

大津・草津・近江八幡・彦根まで宿がほぼ埋まる

メディア・SNSでの露出

メディア出演多数

西川さんが数多くのメディアに出演し、フェスと滋賀県をPR



滋賀県や草津市、会場（烏丸半島）の知名度向上

「イナズマの会場」として全国に認知



関連イベントによる波及効果

イナズマフードGPXLなどの関連イベントが開催され、さらなる経済効果につながっている



地域のにぎわい・シビックプライドの醸成

地元の飲食・宿泊事業者や住民が参加

過去には、飲食フェアや飲食マップの作成、現在では駅前施設によるフォトスポットの設置・荷物預かり・お土産販売なども実施

※イナズマ側も「どんどんやってほしい」という意向



何より大きいのは、西川さんの存在

「西川さんの地元貢献の思いにこたえたい」

という声が、行政・地元・事業者から多く寄せられている

関係者が多く、トラブルになることも多々あるが、皆さんに共通しているのは、西川さんが「こうしたい！」とおっしゃっているから、その思いにこたえたくてやっているということ。

西川さんがそう言うなら協力する、という事業者も多い。滋賀県や地元の草津市・守山市が積極的に関わっているのもこのため。

01 地域を巻き込む



民間・県・市がそれぞれ主体的に動いていることが非常に大きい

- ・仕事の押し付け合いではなく、それぞれが主体性を持って気持ちよく動く
- ・ビジネスが大前提ではあるが、「イナズマへの協力が地域振興や琵琶湖の環境保全につながる」という意識を持ってもらう
- ・特に調整していなくても、タクシーやバスを増便している

02 地元への還元



寄附による琵琶湖の環境保全、地元事業者の出店

- ・西川さんのポリシーとして、行政からの補助金は受け取らないスタンス
- ・補助金はトップが変われば方針が変わることもあり、「金の切れ目が縁の切れ目」になりかねない
- ・むしろ毎年、寄附をいただいている

03 継続と信頼関係



毎年の積み重ねで実行委員会・行政・地元の信頼を構築

- ・意見をしっかり聞き、対応できることはすぐに対応する
- ・細かな積み重ねが、担当者が変わっても次の円滑な運営につながる
- ・最近は「今年も同じですか？」「了解しました」と短いやり取りで終わることも多い

おまけ



もっと詳しく知りたい方は…

『稲妻革命譚』

をぜひご覧ください！

本日お話しできなかった裏話も…!?

■書誌情報

『稲妻革命譚 滋賀県における「FEST. INAZUMA」の社会的役割とその効果』

著者：西川貴教、津田昌太郎

価格：2,800円＋税

発売日：2026年7月6日（月）

出版社：株式会社blueprint



ご清聴ありがとうございました

音楽フェスを活かした地域振興の取組 ～滋賀県・草津市によるFEST. INAZUMAとの連携～

滋賀県 観光政策局

TEL : 077-528-3743

Mail : sa00@pref.shiga.lg.jp

草津市 商工観光労政課

TEL : 077-561-2351

Mail : shoro@city.kusatsu.lg.jp